

富小PTAの改革 (素案)

1. 経緯
2. 素案
3. 審議・採決

平成28年7月2日
PTA会長 岩崎

経緯

1. 全国のPTAの状況

PTAなんてなきゃないで、誰も困らない。

残したいと思ってる奴がいるなら、オマエらでやれよ、関心ない人を巻き込むな。

添付資料参照

(1) なぜ、ボランティアなのに強制感があるのでしょうか

- ・共働き家庭が増えてる現状に全く合わない
- ・40年前の経験者からもまったく同じ、変わっていない
- ・運営方法が前時代的だから、現代では適応しにくい

(2) 間違った理解

- ・加入義務はない
- ・PTAに加入しないことで不利益を被ることはない
- ・施設利用は児童全員を対象でなければいけない（学校教育法137条）

(3) 全員参加の限界

- ・全員参加を見直すこと、解説すること、仲良くなることが改革のカギ

本会では問題となったことはないが、状況は同じと推測

経緯

2. 平成27年度の取り組み

(1) 通年活動の紹介、会員募集

通年活動の活性化や支援を目的に、ポスター11枚を作成、掲示活動を展開、特集記事全14ページを作成し広報

(2) 地域協力委員の役員免除規定の締結

地域協力委員と選考活動の負担低減を目的に、管轄する市役所の各部署、富中PTAと協議し、富中PTAとの免除規定を締結

(3) 会則の制・改定

本会運営の効率化、会員の理解を深めることを目的に、特別委員会を設置し会則の制定・改定を実施

(4) 活動手順の文書化

活動の引き継ぎ、効率化を目的に、各専門部会、本部役員会の手順を文書化を継続して実行中

局所に直接的な効果はあるが、本質的な改善とは言えない

経緯

3. 現状調査

平成 2 8 年 2 月から現状調査を実施し、次の結果を得た

役員アンケート、過去決算書、役員数、各部会活動報告を用い分析した

	表題	課題	根本原因
運営	役員の数	「1 子 1 年」は不成立	家庭数に比べ役員数が多い
負担	活動内容	目的があいまい	活動が慣例化し、実施することが目的となっている
	活動方法	個人や方法で負担の感じ方が違う	方法に工夫がなかったり、手順が決まっていない
財政	収支バランス	過去 6 年間で 5 年赤字	収入減少に対する支出削減が足りていない

具体的な対策を実行するため、素案を作成

素案

1. 素案立案

根本原因の改善を検討し、対策を10件立案した

	改善策	具体的な作業
1	全活動の目的と現状の負担を確認し、つり合いの取れない活動は改善や廃止する	目的確認リスト作成、現状比較、改善や廃止の検討
2	活動方法をチェックリストで確認して、問題がある活動の効率化を行う	チェックリスト作成、現状確認、不足資料の作成、電子化
3	高額な広報紙の発行をやめ支出を減らす 作成方法を改善し広報部役員数も縮小する	企画を見直し、HP活用などに変更、担当を書記に変更
4	校外指導員を地域住民にも依頼し欠員を減少させる、郊外部役員数も縮小する	地域住民への協力要請、システムやルール作り
5	HPやSNSの情報発信方法を更に進化させ、効率化する	SEの招集、HPリニューアル、活用増加のための検討

素案

1. 素案立案

根本原因の改善を検討し、対策を10件立案した

	改善策	具体的な作業
6	40周年予算検討を行い収支バランスを改善する、来年度の活動負荷を低減する	特別委員会の結成、企画検討
7	事務用品の購入を見直し、費用を削減する	節約、合理化、寄付、廃止などの検討、会員への協力依頼
8	児童文化振興活動を他校PTAとの合同開催し、費用を削減しつつ拡大する	他校PTAとの調整、企画の立案
9	専門部会の活動に対する理解を進めるため、広報活動を実施、立候補者を増加させる	特集記事を作成しPR活動を行う
10	本部役員に庶務を置き、副会長の仕事を本会の改革に重きを置く	仕事内容の見直し

素案

2. 検討担当と計画

	改善テーマ	具体的な作業	担当	時期
1	全活動の目的	目的の比較	本部・部会	8月末
		改善や廃止の検討	本部	9月末
2	活動をチェックリストで確認	チェックリスト作成	本部・部会	9月末
		現状のチェック	部会	11月末
		資料の作成・電子化	本部・部会	3月末
3	広報紙の見直し、 広報部縮小	企画の見直し	広報	8月末
		広報活動の見直し	本部・広報	2月末
		広報部の縮小検討	本部	3月初
4	校外指導員の拡大、 郊外縮小	システムやルール作り	特別委員会	1月末
		地域住民への協力要請	特別委員会	3月末
		郊外部の縮小検討	本部	1月末
5	HPやSNSの進化	開発チーム立ち上げ	特別委員会	10月初
		システム設計	特別委員会	1月末

素案

2. 検討担当と計画

	改善テーマ	具体的な作業	担当	時期
6	40周年予算検討	検討チームの結成	公募	10月初
		他校調査や企画検討	特別委員会	2月末
7	事務用品の見直し	現状調査	会計	9月末
		改善検討	本部	12月初
8	児童文化振興活動	他校との調整	本部・文化	11月末
		企画の検討	本部・文化	3月初
9	専門部会活動の広報	紹介方法の検討	本部	8月末
		特集記事の作成	広報	今期内
10	庶務の増設	仕事内容の見直し	本部	12月初

審議・採決

1. 素案の審議

(1) 素案に対する審議

- ・ 1 ～ 5、8 は、活動開始から各部会の協力が必要、本委員会で採決したい
- ・ 活動による負担増は避けられないため、専門部会として対応できない場合は中断する
- ・ 採決された活動であっても、進捗によっては延期、中断する

2. 活動の採決

(1) 今後の予定

- ・ 運営委員会で各検討の進捗を報告
- ・ 進捗状況によって、その都度、活動の継続を審議

【トレンド日本】菊池桃子の「PTA活動って難しい」発言きっかけにネットの働く母親の不満が噴き出した！ 不要論も飛び出す中で…

共働き世帯の増加などを背景に、全員参加が“建前”とされてきた「PTA」のあり方に注目が集まっている。地域の清掃や登下校の見守り活動など、仕事のある時間帯にかぶる行事が多いため、「仕事を休んでまでやらなくてはいけないのか」と負担に感じる親が増えているからだ。3月には、菊池桃子さんが「働く母親には活動が難しい」と発言したことも話題となり、業務や組織の効率化など、PTAの見直しが進んでいる。（中井なつみ）

無駄だと思うのに…

3月25日、政府の「一億総活躍国民会議」に出席したタレントの菊池桃子さんが、「任意にもかかわらず、すべての者が参加するような雰囲気作りがなされている。働くお母さんたちにとっては、PTA活動っていうものが難しい」と発言した。インターネット上では、「よく言った」「専業主婦でも辛い」「なくしてしまえばいい」など、賛同する意見が相次ぎ、PTAの運営や存在の意義についてのさまざまな意見が交わされていた。

東京都内の公立小学校に通う小学3年生の長男がいる会社員の女性（38）も、PTA活動に悩む1人。「月に一度の集まりは、仲よしグループのおしゃべり会になっている。わざわざ有給を取って参加しても、私には分からない内輪の話ばかりで、無駄に感じる」と訴える。

女性が所属する「広報委員会」では、年3回発行する広報誌に載せる情報を交換するという名目で、毎月一度、平日の昼に数時間ほど学校へ呼び出される。しかし、待っているのはお菓子を持ち寄った母親たちの噂話や、PTAとは関係のない話題。「この時間があれば、仕事を進められるのに…」。会社でできなかった仕事を自宅に持ち帰り、深夜にパソコンを開くたび、気が重くなる。

原則は任意活動

PTAとは、「Parents Teacher Association」の略で、保護者と教職員が協力し、子供の健全育成を図ることを目的とした社会教育関係団体。昭和21年に文部省に「父母と先生の会委員会」が設置されたことから、全国の小中学校に広まっていった。原則として任意参加だが、共働き世帯の増加や少子化などで役員となり手が減っていることなどが影響し、「1人1役」「在学中に必ず役員を一度やる」など、暗黙のルールとして活動を強制するケースも少なくない。

川崎市内の公立小学校に、6年生の長女を通わせる会社員の女性（39）は「子供1人当たり、在学中に役員を1回はすることが義務。断ったら子供がいじめにあった人もいて、何とか仕事の都合を付けた」と話す。平日昼の会合に参加するため、年20日の有給を5回も使った。来春には次女（5）が同じ小学校への入学を控えており、「任意とはいえ断れる雰囲気ではない。また有給がなくなる」と肩を落とす。

【トレンド日本】 菊池桃子の「P T A 活動って難しい」発言きっかけにネットの働く母親の不満が噴き出した！ 不要論も飛び出す中で…

運営に工夫を

P T A に対する反対意見が注目される一方、地域での P T A の役割を評価する声が根強いのも実情だ。教育問題を研究する N P O 法人、教育支援協会（東京都中央区）が文部科学省の委託を受け、平成 2 1 年に実施した保護者への意識調査では、約 6 5 % が「P T A は必要」と回答していた。文部科学省の中央教育審議会でも、昨年 1 2 月、P T A が「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み」の 1 つとして明記されている。

ただ、共働きやひとり親世帯など、個別のさまざまな事情を抱えた保護者たちが参加できるよう、新しい活動方法を模索する P T A が増えている。東京都内の公立小学校で、この春から会長に就任する会社員の男性（5 2）は、「平日昼の活動と、夜の活動を分ける『分業』制がなければ、会長を引き受けられなかった」と話す。

男性の所属する P T A では、昼間の活動がしやすい役員は日中の会議に参加し、夕方以降の活動がしやすい役員は、他校の P T A との会合など、夜間の活動を引き受ける「役割分担」を徹底している。

このほかにも、頻繁に開催される会合を減らすため、形式的な連絡はメールのやりとりで完結させたり、役員にばかり負担が集中しないよう、各保護者にも少しずつボランティアとして活動に参加してもらうよう呼びかけたりなど、各地の P T A ではさまざまな工夫が凝らされている。

こうした流れの中で、全国小中学校の P T A 約 2 万 8 千組織が加入する公益社団法人、日本 P T A 全国協議会（港区）でも、P T A の運営を「効率化していく必要がある」との見方を示す。これまで、同協議会では隔年で各地の P T A による「活動」を紹介していたが、今年 3 月には初めて、「運営」に焦点を当てた事例集を発行。同協議会の高尾展明事務局長は「家庭環境の多様化に対応し、P T A も変わる必要がある。役員 O B や地域住民にも活動をお願いするなど、さまざまな工夫を考えていければ」と話す。

自身も P T A 活動に参加し、「P T A お役立ちハンドブック」などの著書があるフリーライターの田所永世さんも「P T A は、保護者の意見や思いを学校組織に伝える上で重要な役割を果たすはずだ」と強調。そのうえで、「ひとり親世帯や共働き世帯、介護者がいる世帯など、さまざまな事情があることを勘案し、できないことを無理強いする必要はない。ただ、P T A の活動に熱心な人には『できなくて困っている』という意見が届いてないことが多いので、両者がお互いの声にきちんと耳を傾けた方がいいのでは」と話している。

くじ引きやじゃんけんでの担当決め。仕事をかかえながら、のしかかる活動の負担——。

P T Aは「子どものために」とは理解できるけど、もう少しうまいやり方はないものか、どうしたら変わるのか。P T A役員やライターとしてP T Aに関わってきた2人に語り合ってもらいました。読者からメールやお手紙で寄せられたご意見も紹介します。

■**全員参加、見直すことから** 横浜市 P T A 連絡協議会・会長、森川智之さん×ライター、大塚玲子さん

—— **P T A の役割とは何ですか。**

森川智之 三つの役割があると思います。一つは、親子のレクリエーションや親の学びなど成人教育、二つ目は、保護者の意見をまとめて代表すること。そして三つ目が、人手や予算で学校を支援することです。

大塚玲子 学校側からみて、「あったほうが助かるな」という団体です。お金の面でも、保護者の窓口が一つで済むという点でも、ないと困る。保護者の意見を集約する機能は大事だと思いますが、必ずしもできていません。難しいですね。

—— **なぜ、ボランティアなのに強制感があるのでしょうか。40年前の経験者からもまったく同じ投書があり、変わっていません。**

森川 やはり P T A が何をやっているのか分からないという面が大きいと思います。分からないから「大変そう」となる。お題目のようで使いたくない言葉ですが、「子どものため」なんです。それに見合うコストかどうかが問題。

P T A の活動にもすぐに役立つものと、長い目でみて役立つものがあります。クラスの保護者による茶話会は意味がないように見えますが、保護者同士の関係がよくなれば、孤立する家庭に手をさしのべられるかもしれない。

大塚 そのためには、もっと P T A が参加しやすいものになっていかないと。いまは「全員参加」が目的になってしまっています。「やらなきゃいけない」が先に来てしまっている。P T A が、家事育児と同様に「母親の義務」になりがちな点も気になります。

森川 私は「目的が分からない活動はいつでもやめていい」と伝えています。行政からの要請や動員でも、意味がないと思えば、断っていい。すごく手間がかかるけど、本当は毎年度、ゼロベースで活動を見直すのがベスト。

大塚 もし活動がまわらないなら、活動を減らすか、参加しやすくして担える人を増やすしかありません。「子どものため」と言われるとスリム化に罪悪感を抱く人もいるようですが、そんなことはない。

■強制せず「休む」選択も 大塚

——大塚さんは、全員参加の限界を感じますか？

- 大塚 「全員参加」の強制は、「P T Aは誰もやりたがらない、嫌なものだ」と広めているようなものです。自主的にやってくれる人を待つ。もしいかなかったら、その年は「休もう」としてもいいのでは。
- 森川 自分たちで腹をくくるしかありません。任意加入を伝えと、会員が減るリスクもある。ただ、伝えなければ「強制された」とトラブルになるリスクがあります。そこは、「保護者を信用するしかありません」と言っています。
- 大塚 実際は、任意加入にしても加入率が9割を超えているP T Aがほとんどです。3、4割でも、楽しくサークル感覚で続けているところもあります。
- 森川 ただ、保護者代表という役割は、「みんなが入っている」と言えるとメリットは大きい。学校に意見したり、学校でプリントを配布したりできるのは、みんなが入っていることが前提の組織だからです。
- 大塚 保護者会として全員加入している組織が必要なら、P T Aと切り離してもいいのでは。いまのP T Aはお金も活動も保護者会もごちゃまぜになった状態で、全員参加を強制させられていますよね。
- 森川 横浜にも、会費も任意という学校があります。ただ、集計の負担が大きすぎる。活動も会費も任意というのは理想ですが、99%の人が活動して、1%がしないことを認められるか。コミュニティーの成熟度につながる議論です。
- 大塚 でも実際は、「あの人はやっていない、ずるい」となる。
- 森川 やはり寛容性が大事だと思います。私が子どもの頃は、父親が働き、母親は専業主婦といういわゆる標準世帯が多く、高度成長を支えてきました。ただ、今は社会が豊かになって、価値観も多様化している。昔のモデルだけでやっていけるのか。その覚悟がコミュニティーに問われています。
- 大塚 病気を抱えている、夫が入院中、シングルマザーで昼夜仕事を掛け持ちしている……など保護者にもいろんな状況があります。本当にできない人と、やればできるけれどやらない人は見目で区別できませんが、分けて考えたほうがいい。

——本当にできない人と、やればできる人をどう線引きしますか。

大塚 線引きは難しい。シングルマザーの私自身も「絶対にできない」と思っていたけど、やったら意外とできてしまったんですね。でも、もし強制されていたら、やらなかった。「どうしてもできない」と思う人は、逃げてしまってもいいと思います。

森川 私も最初は「勘弁してよ」と思っていたんですが、できちゃった。でも、「私もできたんだから、あなたもできる」と自分の尺度で他人に同じことを求めている。それなのに、投書にあるような「みんなの前で『できない理由』を言われた」というのは、プライバシーへの配慮が欠けていますね。「非会員の子どもは卒業式に花がない」という方からの意見もありますが、これもひどい。「子どものため」である P T A がすべきことではありません。P T A の任意性が先鋭化すると、「任意団体だから何をやってもいい」となり、こういうことが起きる危険性も感じます。入会制限だって可能になってしまう。多くの人が入っているということは、偏りをなくすためにも重要です。

■多くの仲間巻き込んで 森川

——P T A 改革を志す人たちに、アドバイスを。

森川 P T A を変えたいと思うんだったら、できるだけ多くの仲間を巻き込んだ方がいい。結局、人の集まりですから。P T A の表面だけ見て批判する人が多いですが、それではよい方向に動きにくい。

大塚 最低限、退会する人が嫌な思いをしないようにするなど、いくつかのステップがある。一般会員も、総会などで意見してはいいでしょう。文句だけ言っても変わりません。意味がないと思っていた活動も、説明を聞けば意味がわかることもあります。

森川 大勢が参加する P T A を目指すなら、「公平」を求めるのは困難。強制されない「公正」さが重要で、寛容の気持ちをもってほしい。暗く重くやるのではなく、「(P) ぱっと・(T) 楽しく・(A) 明るく」ですね。明るいところに人は集まります。

* もりかわ・ともゆき

1968年生まれ。公認会計士。2012年度から横浜市P連役員を歴任し、新任役員向けの研修会でP T Aの任意性を取り上げている。
14年6月から現職。

* おおつか・れいこ

1971年生まれ。編集者・ライター。結婚や離婚、子どもなど、家族をテーマにしている。近著に「P T A をけっこうラクにたのしくする本」など。

■ <Y e s> 保護者会で活動を解説

● 3年前に改革を始め、研修会の開催や動員、本部役員と先生との飲み会、形式的なパトロールを、廃止や希望者のみの参加に変えました。広報紙はホームページへの掲載に変えて、締め切りに追われることがなくなりました。行事の手伝いなどは、年度初めに日程を提示し、2日を選んでもらっています。学級委員が学校に直接意見を言える仕組みがやりがいにもつながり、毎年立候補で定員オーバーです。(神戸市 前中学校 P T A 会長 今関明子さん 47歳)

● 10年前、子どもが小学校に入学した最初の保護者会で、何のことかわからないまま P T A の委員決めが始まり、誰も手を挙げず時間だけが過ぎていきました。状況を変えようと、仲間と一緒に新入生の保護者会で仕事を解説すると、すべての委員が立候補で決まりました。当時の仲間と3年前に N P O を設立し、P T A の研修などを行っています。解説すること、仲良くなるのが改革のカギです。(東京都葛飾区 N P O 法人代表 緒方美穂子さん 53歳)

■ <N o> 相談できる窓口がない

● 私は P T A に9年かかわり、本部役員にもなりました。改革は進まず、3年前に退会。今年、やっと入会届ができましたが、非加入を選んだ約1割の世帯に、子どもが行事に参加できなかったり記念品をもらえなかったりする場合があるという文書が配られました。教育委員会に相談しても、「仕方がない」と言われ、コンプライアンス上の問題や人権侵害があっても、相談できる窓口がありません。(東京都羽村市 元 P T A 会員 山崎信子さん 45歳)

● この春まで息子がいた小学校で P T A 会長をしていました。自治体が行っている「協働のまちづくり」への出席と教員や保護者へのレクチャーを求められ、地域活性化イベントに参加者を動員するように求められてきました。しかし、学校や P T A の会員から協力が得られず、困難でした。これでは、ますます P T A 会長のなり手がなくなりそうです。P T A は学校と児童の支援だけで許してもらえないのでしょうか。(岩手県 前 P T A 会長 男性 50歳)

◆ うまいければ、学校での子どもたちの姿や地域のことが見えてくる P T A。その P T A を考える昨春の企画から1年、読者から届いたお便りには、自分がやりたいと手を挙げる人が出るような P T A に変えた人も、うまくいかなかった人もいました。

うまく改革に成功した P T A には、いくつか共通点がありました。まず、活動・業務を削ることを恐れないこと。校長が協力的なことも大きく、仲間を見つけることも大切です。そうやって変わった P T A の結果として、強制ではない自発的な活動が生まれていました。

一方、残念なことに、意見を言って排除された人たちもいました。勇気をもって発言したり退会したりした人を責める地域や学校は、本当に「子どものため」なのか疑問です。

さまざまな考えを持った保護者が集まる学校という場で、全ての人が満足できる P T A にするのは簡単ではないでしょう。変えるよりも、波風を立てずに卒業を待つ方が楽かもしれません。ただ、「変わって欲しい」という人はたくさんいます。自分と違う考え方の人を尊重する姿勢は、子どものためにも大きな力になるのではないのでしょうか。(田中聡子、杉原里美)

図 1 -発展への流れ

